

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		宮崎キャンパス		開設学科		管理栄養学科		
科目名称	からだと疾病Ⅱ						授業形態		講義	
科目コード	307100	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	山口 昌俊								ICT活 用	○
授業概要	本授業の目的は人体の機能（生理学）を学ぶことである。 人体の構造（解剖学）と機能（生理学）を理解し、将来、管理栄養士として、医師、薬剤師、看護師等との医療チームに加わるために必要な基本的知識の習得を目指してほしい。 病院での実務経験のある教員により、医療現場や授業で学修したことが、どのように生かされるかを説明する。たとえば、患者が気分不良を訴えていても、感覚器の機能を理解していないと、正しく診断ができないことになる。 特に「からだと疾病Ⅱ」では生理学を中心に講義する。生理学は医療に携わる者にとって最低限の必要な基礎知識であり、今後習得する臨床科目の基本となる大切な科目である。									
関連する科目	本授業の履修前に受講することが望ましい科目：特になし 本授業の履修後に受講することが望ましい科目：臨床医学Ⅰ・Ⅱ、からだと疾病実習Ⅰ・Ⅱ									
授業の進め方 と方法	はじめに前回の内容を理解しているかどうかを確認するために、小テストを行う。次に講義のために作成したレジメを利用して、授業を進める。授業の内容は、各項目で理解してほしい生理学的内容と、それと関係した疾患について説明する。一部グループワークを行う。そのグループワークは、必要に応じてユニバを使用する。最後に過去に出題された国家試験の中から、各界の講義に関連した設問を提示して、解説する。講義に必要なレジメはユニバを利用して配布予定である。また、講義内容に関する質問はユニバを利用して受け付ける。同じ内容を、2年生の実習でくり返し、覚えてもらう予定である。									
授業計画 【第1回】	1 骨格系 骨および筋肉の働き									
授業計画 【第2回】	2 循環器系 心臓拍動の調節、血圧調節									
授業計画 【第3回】	3 呼吸器系 肺と組織でのガス交換、肺活量									
授業計画 【第4回】	4 消化器系① 胃、腸での栄養代謝大腸、肝臓、膵臓									
授業計画 【第5回】	5 消化器系② 肝臓での栄養代謝、胆汁の生成、解毒									
授業計画 【第6回】	6 泌尿器系 尿の生成、尿細管での再吸収と分泌									
授業計画 【第7回】	7 生殖器系 性周期と女性ホルモン									
授業計画 【第8回】	8 内分泌系 ホルモンの働き									
授業計画 【第9回】	9 脳神経系① 神経細胞の興奮、電気現象、中枢神経の働き									
授業計画 【第10回】	10 脳神経系② 末梢神経の働き									

授業計画 【第11回】	1 1 感覚器系① 体性感覚、視覚
授業計画 【第12回】	1 2 感覚器系② 聴覚、味覚
授業計画 【第13回】	1 3 体温調節 放熱散熱機構
授業計画 【第14回】	1 4 ビタミン欠乏症、人体発生、減数分裂、外胚葉、中胚葉、内胚葉 ビタミン過剰症と欠乏症、遺伝、発生
授業計画 【第15回】	1 5 免疫系： アレルギー、膠原
授業の到達目標	①体の機能（生理学）について理解する。【知識・理解の獲得】 ②特に代表的な疾患との関連性と、発病の仕組みについて理解する。【知識・理解の深化】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)
授業時間外学習【予習】	【予習】配布したレジメの次の授業内容について読んで来ること。（30分程度）
授業時間外学習【復習】	【復習】その日に講義されたプリントの内容を理解すること。（1時間程度）
課題に対する フィードバック	小テストは採点后、返却します。
評価方法・基準	定期試験を行い、この点数、小テストの成績を勘案して評価する。 定期支店の点数を90%、小テストの点数を10%として、判定する。
テキスト	はじめての解剖生理学 一講義と実習― 金澤寛明 著 （南江堂）
参考書	生体のしくみ 標準テキスト 第3番 新しい解剖生理 高松研、堀内ふき 著 （医学映像教育センター）
備考	